ほん屋 23号店

2019(R1).10

店主：学生図書委員4年
・前田　　・又吉
・嘉手刈　・福地

約一か月の夏休みが終わりました.
皆さんけが等なく過ごせましたでしょうか.
楽しい思い出がたくさんできたと思います.
夏休みで生活習慣が乱れてしまった人は，直せるように頑張りましょう.
また，まだまだ暑いので体調管理には気を付けましょう.

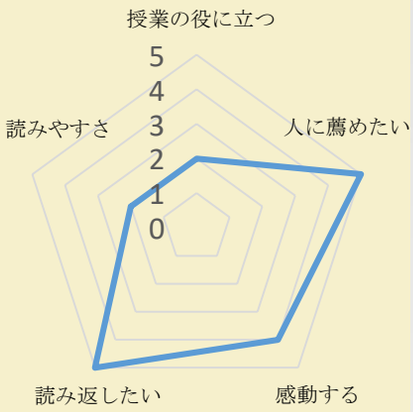
※この発刊紙は、学生が作るニュース（図書館発行）です。
“ほん屋” of the students, by the students, for the students

ブックレビュー紹介

生物資源工学科　4年　新垣千紘

『Another』　著：綾辻行人

「二十六年前のその出来事が引き金になって、以来、夜見北の三年三組は“死”に近づいてしまった」
夜見山北中学校三年三組に転校してきた榊原恒一は、何かに怯えている様なクラスの雰囲気に違和感があった。同級生で不思議な存在感を放つ容姿端麗なミサキ メイに心を惹かれ、接触を試みる恒一だが、謎は一層深まるばかりであった。そんな中、クラスメイトで学級委員長の桜木の残酷な死を目の当たりにしてしまう。この“世界（クラス）”では何が起っているのか。
　私はあまり本を読むタイプではないのだが、この本は表紙の少女の絵に惹かれ、流れるように手に取り、食い入るように読み始めたのだ。前半は物語の時間の流れが遅く、後半になるにつれ物語に引き込まれていき、長編なのに一気に読み進めることができるのだ。もし本が苦手という方がいるなら、この本を手に取ることをお勧めする。本の中の世界に引き込まれ気付けば、読み終わっているだろう。
「一つの謎」を、視点を変えながら物語を展開させることで読者の想像力をかきたてている。この作品中では、クラスの関係者が次々と残酷な死を遂げるのだが、その死に様がとても美しいのだ。挿絵のない活字だけの本のはずだが、頭の中で完全に映像化できてしまう、そんなところがこの本の魅力である。



総合科学科　吉居啓輔先生

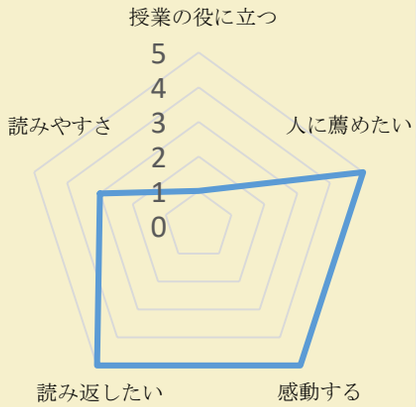
『流れる星は生きている』　著：藤原てい

第二次世界大戦終結間際、満州国の首都新京の観象台の官舎に若い日本人の夫婦が3人の子供と住んでいた。1945年8月9日午後10時半頃、夫のもとに非常招集の使いがくる。戻った夫はうろたえる妻に向かって「1時までに新京駅へ集合するのだ」と告げる。新京から今すぐ逃げるのだと。

この本は、ソ連による突然の満州進攻によって日本への引き上げを余儀なくされた母子の実体験を、その母自身が綴ったものです。「子供を1日遊びに連れ出すだけでも大変」という話は良く聞きます。か弱くお嬢さん育ちの若い女性が、5歳と2歳、更には生まれて１ヶ月程の赤ん坊を抱えて、十分なお金も頼れる人も無く、戦争の混乱の中突然満州から日本に帰れと言われたらどうなるでしょうか。この若い母も、そして周りの日本人も、変わっていきます。

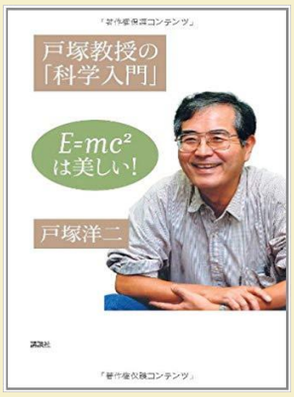
日常から切り離された人間の弱さと、醜さと、気高さと、強さと。人間が持つ様々な一面を綴った珠玉の一冊です。極限状態で本質の一端が見えるのは人間も数学も同じなのかもしれません。

余談ですが、藤原ていの夫はこの後気象台を辞して著名な作家となった新田次郎、そして、本書に登場する「2歳だった子供」は数学者であり同時に「国家の品格」の著者としても知られる藤原正彦です。読まれた方は是非感想聞かせてくださいね！

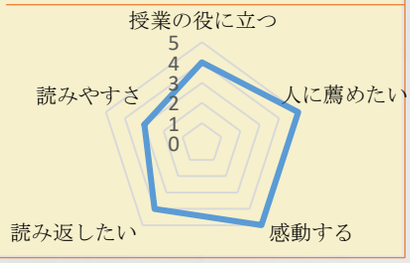


機械システム工学科　森澤征一郎先生

『戸塚教授の「科学入門」 E=mc2 は美しい!』　著：戸塚洋二



ニュートリノ、暗黒物質、ヒッグス粒子宇宙の神秘…ノーベル賞に最も近かった物理学者が、迫りくる死を前に伝えたかった「科学はこんなに面白い」を伝えた一冊です。具体的には光科学を中心に量子力学までの現代科学の概略とその背景を分かりやすく記載されています。特に現代科学とニュートン力学や電磁気などの違いを踏まえつつ、理論を理解する上で何が大事なのかを知るには良い内容でした。もともと個人のblogに掲載していたためか著者が読者に話かけてくれるような調子で記載されており、教科書では知ることができなかった物理の新しい一面に触れることができる一冊だと思います。



ひとこと

読書の秋も近づいてきました.
図書館で好みの本を探して，読んでみるのもいいかもですね.

延滞している本がある学生は、 早めに返却してください！
また、本を紛失した場合は、図書館カウンターに相談に来て下さい。